

金子豊美議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 順位5番、議席番号3番、金子豊美議員。

(5番金子豊美議員登壇)

○**3番 金子豊美議員** きょう12月7日は大安吉日、また、暦の上では大雪を迎えました。本日最後の質問者として、一般質問初日を締めくくらせていただきます。

期待を抱きながら一般質問をさせていただきます。

地区公民館のコミュニティセンター化について質問をさせていただきます。

これまで一般質問で、地区公民館のコミュニティセンター化についてさまざまなことをお聞きしてきました。最初は、コミュニティセンター化のメリットとデメリット、地域づくり計画と計画の実践について。次に、今後のスケジュール、コミュニティセンター設置後のコミセンと市営バスとのかかわり、活用について。ことしの3月議会では、コミュニティセンター化の基本的な考え方とコミュニティセンター化後の運営体制、業務内容について。そして6月議会では、コミュニティセンター化後の予算関係について質問をさせていただき、当局よりそれぞれについて答弁をいただきました。

また、今議会においては、地域づくり計画が策定された致芳地区、西根地区、平野地区の3地区公民館が平成30年4月よりコミュニティセンターに移行される予定から、関係する条例の改正、設定が提案されています。3地区公民館についても指定管理制度を新たに受ける、仮称コミュニティセンター運営協議会設立に向け、地域の特徴を生かした組織になるよう、日夜努力していることと思います。また、中央地区、伊佐沢地区、豊田地区についても、地域づくり

計画の完成に向け、着々と準備を進めていることと思います。

私は、今も6地区同時にコミュニティセンターに移行できればと思っています。まだ策定できていない地区についても、コミュニティセンターに移行してから地域づくり計画を策定する方法もあるのではないかと考えています。しかしながら、現在先行する3地区は地域づくり推進課、他の3地区は文化生涯学習課と、それぞれ担当課が分かれている状態で進んでいます。長井市全体の活動がよりスムーズに進むためにも、6地区の足並みが一刻も早くそろよう期待しているところです。

さて、先日開催されました市民と市議会との意見交換会の場で、市民から、地区公民館のコミュニティセンター化について、市民へのPRが不足しているのでは、理解が得られていないのでは、等々の意見がありました。

3月議会において、市民への周知等について質問をさせていただきましたが、市長より次のような答弁をいただきました。

各地区公民館関係者や団体、市民への周知は十分かというご指摘でございます。これについては、議員からありましたように、極端に言って不十分だというふうに思っています。これまでも努力して、教育委員会やら、あるいは地域づくり推進課のほうでもさまざまな形で地域に入らせていただきましたけれども、まだまだ各地区公民館の館長や職員の皆さんがメインでありまして、協議会や、あるいは自治公民館の連絡協議会、運営協議会、こういった方々へも説明はしていますけれども、全く徹底はしていませんというふうに私も認識しております。そのため、各地区での説明会に加えて市報やホームページ等の媒体も活用しながら、今までも若干周知はやってきたんですが、今後これからもっともっと、これは機会を見ながら、なおかつ特に指定管理、平成30年度から入りたいと思っ

ていますので、29年度、あるいは入った年とか、いろんな方々の理解が得られるように、そして市民の皆様に働きかけて、一緒になって、自分たちの住んでいる地域はやっぱり自分たちで、人任せじゃなくてやっていこうということと呼びかけてまいりたいというふうに思います。今後とも周知に努め、広報等々、あるいは話し合い等々を十二分に進めていくようにしたいと思います。という答弁をいただきました。

次に、市長の答弁の中にありました、自分たちの住んでいる地域はやっぱり自分たちで、人任せじゃなくてやっていこうということと呼びかけてまいりたいというふうに思います。の部分に関して、過日、致芳地区内で、五十川分館、（自治公民館）連絡協議会主催によるコミュニティセンター化についての話し合いが行われ、約60名の方々が参加し、私も同席してきました。その場の資料は、地域の役員の方々が自分たちでまとめ、参加者への説明資料として作成したものです。大変わかりやすい資料でしたので、一部読み上げ、紹介させていただきます。

1、最初に、致芳地区公民館がコミュニティセンターになって何が変わるのかを表にまとめてみました。名称は致芳コミュニティセンター、館長はコミュニティセンター長となるというのが現在の案のようです。正式には12月市議会で決定となるかと思えます。常勤職員の数は現在と同じですが、コミュニティセンター化のために主事3名に増員する時期を先取りして準備に当たられたようにしてきたということのようです。法律面から見ると、公民館は社会教育法に教育委員会が所管する機関として位置づけられています。事業は生涯学習に関する内容、運営費用は長井市からの指定管理料となります。一方、コミュニティセンターは生涯学習だけでなく地域づくりに関する事業にも取り組むことができるようにするために、名称を変え、新たな予算もつけて設置されます。

2、次に、先ほどの説明と重なりますが、なぜコミュニティセンター化が進められるのかについてお話しいたします。致芳地区でも少子化、高齢化などが進みつつあり、それに伴ってさまざまな課題が生じています。地域が持つ力をうまく生かして、そういう課題に対処したい。進行に歯どめをかけたい。また、そうした取り組みをすることによって地域の力をより強くし、人材も育てていきたい。そんな願いを込めた地域づくり事業の拠点としてコミュニティセンター化が進められています。

3、次に、来年4月に予定されている移行までに行う準備を上げてみます。長井市としては、仮称長井市コミュニティセンターの設置及び管理に関する条例を制定し、法的な条件を整備します。致芳地区公民館は、地区民に対して、仮称致芳コミュニティセンターへの移行をどう進めていくのかなどを説明し、理解と協力を得ながら具体的な準備が始まります。仮称致芳コミュニティセンター運営協議会の名称や構成を検討し決定すること。あわせて、本年3月に致芳地区全戸に配布された致芳地区地域づくり計画書に盛り込まれた5つの分野の事業、「地域交流・教育文化・環境整備・健康福祉・産業振興」を具体的に推進していく運営組織をどう構成するかも重要な課題です。来年度の地域づくり事業を計画、申請するとともに、その予算要求をすること、指定管理料についても予算要求が必要です。なお、細かい点はもっといろいろと考えるかと思えます。

4、次に、地域づくり事業として想定される具体的例を挙げます。「致芳地区地域づくり計画書」に記載された多くの案の中から、各分野一つずつ、地区民の笑顔につながりそうなもの、やろうと思えばできそうなものという観点で、私たちが、私たちというのは役員ではありますが、勝手に選んだもので、実際に来年の4月から取り組む事業というわけではありませんし、これ

しかないということでもありません。1つ目は、川東地区の方々の地区に対する思いを想像してみる機会にする意義を感じ、上げました。2つ目の、史跡や文化財の保存、保全は一部進められています。今後は特に地域の子供たちの誇りにつながる努力が大切かと考えました。3つ目の自主防災組織は、年々充実の方向にあります。そろそろ実際の動きを模索することも可能かと考え、上げてみました。4つ目、交通弱者、買い物弱者支援活動は、準備も運営も並大抵ではないと思いますが、必要感も大きいかと考え、上げました。最後の地元農産物直売所は、余り欲張りすぎずに可能な形を見つけられそうに思いました。

5、最後に、大変おこがましいことですが、地域づくり事業を進める上で大切にしていってべき点を整理してみました。1つは、事業の絞り込みです。地区民の夢や希望、幸福感につながる事業、しかも無理のない持続可能な事業を見きわめ取り組むことが大切かと考えます。2つ目は、地域の人材の確保という面です。常勤職員に新たな負担を期待することは難しいでしょう。事務局的に活躍できる人材の確保なしに新事業は展開不能です。3つ目は、地域の人材が活躍できる環境を整備することです。権限や責任が明快で、機能的かつ開かれた組織をつくること、また、経済的にも安心できる環境が必要です。という内容の説明でした。

致芳地区、五十川地区の方々にあったコミュニティセンター化に対する説明でした。

市全体に対する周知方法も大変だと思いますが、その地区、対象者に合った周知方法、説明が必要だと思います。

また、参加者からは、コミセンになると何ができるようになるのか、どうして6地区一斉にできないのか、現在どのように進んでいるのか、3月まで間に合うのか、女性の参加が必要では等々の質問、意見がありました。

致芳地区以外でも女性の参加について、役職該当者だけでよいのか、多年にわたり協力、参加できる女性の活躍の場、体制づくりも必要ではないかななどの意見があるとお聞きしています。組織づくりの上で女性の参加をどのように生かすかが大切だと思います。

次に、2部では、実際に地域づくり計画の中で何が最初にできるのか。例えばとしてであります。除雪隊、雪かきの創設、除雪隊の活動が軌道に乗れば、という内容で意見交換が行われました。

6月議会において、コミュニティセンター化後の予算について質問をさせていただいたときに市長より、例えばとして、高齢者宅の間口除雪等の取り組みについて答弁をいただきました。地域づくり計画の中で最も身近な課題として、また、最初に取り組みやすい事例として、高齢者宅の除雪が共通の課題だと感じたところがあります。

以上のような現状を踏まえながら質問をさせていただきます。

まず、最初の質問ですが、3月議会での市長答弁にもありました市民への周知について、今年度どのような取り組みを行ってきたのか、市長にお伺いします。

2つ目の質問ですが、最初の質問とも関係しますが、市民への周知方法、理解を得ることについて、先ほど申し上げました、地域の中にはコミュニティセンター化の目的や地域づくり計画の取り組みを理解している方々も多くおります。公民館職員を含め、そういう方々とも連携をとりながら、対象者に合った説明を丁寧にしていくべきだと思いますが、市長の考えをお伺いします。

3つ目の質問ですが、現在、コミュニティセンター化の準備を進めている3地区について、組織づくりを行っているようですが、地域づくり推進課より、案として、運営組織図のパター

ンが2つ配布されたとお聞きしています。運営部門と運営協議会、専門部の部員の選出方法など異なる部分もありますが、どちらも大きな組織図として表現されています。現在、世帯数の減っている地区が多くあり、各地区長を中心とした長井市地区再編等検討委員会が設置される予定との、総務常任委員会協議会での説明もありました。

この2つのパターンは参考資料だと思いますが、3地区にはこれまで築き上げてきた地域づくりの特徴があると感じている方々が多くいます。致芳地区には致芳地区ふるさとづくり促進協議会、西根地区には西根地区環境整備促進協議会など、これまで地域づくりの窓口として活躍してきた組織もあります。こういう組織とも連携しながら、まずは地域の特徴を生かし、組織の基礎づくりを大切に、自分たちで無理なくできることから取り組むことが第一歩だと思いますが、市長の考えをお伺いします。

次に、今回の公民館のコミュニティセンター化に伴い、平成26年3月に策定された長井市教育振興計画の公民館の充実についての部分について、今後見直しをする必要があるのか、また、コミュニティセンター化について教育委員会や社会教育委員会議の中でどのような意見が出されたのか、教育長にお伺いします。

最後の質問になりますが、過日、地域づくり推進課の職員の方々が各地区公民館を訪問して、職員と情報交換を行ったとお聞きしております。公民館職員より、直接担当の人と話ができてよかったとお話もお聞きしています。各地区を回ってみて、現在の課題をどのように捉えたのか、また、今後の対応はどうするのか、地域づくり推進課長にお伺いします。

これまでの一般質問と重複する部分もあるかと思いますが、大切な時期でもありますので、確認も含めてご答弁いただければ幸いです。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴

ありがとうございました。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 金子豊美議員から大変励ましをいただいたということで、感謝を申し上げたいと思います。

大変貴重なご提言をいただいたわけですが、特に致芳地区の五十川の分館連の皆さんの、具体的な60名の皆様での議論といえますか、これからの方針等々の話をお伺いいたしまして、どうも私を含め地域づくり推進課、あるいは文化生涯学習課は暗く、ちょっと明るさがないということでご指摘をいただけていますが、そういったところで非常にうれしい、現場の状況などもお知らせいただいて、感謝を申し上げたいというふうに思いますし、午前中、五十嵐議員からいただきました、基本的な交付金なんかもやっぱりもうちょっと上げなきゃいけないんだなというふうに改めて感じたところでございます。

それでは、3点ほど、私のほうにご質問をいただいておりますので、お答えをさせていただきますと思います。

まず最初に、3月議会での答弁で、市民の皆様への周知に関して、今年度どのような取り組みを行ってきたかということでございます。

今年度は、コミュニティセンターに移行するに当たって先行していただいている3地区については、地域づくり計画を実践しながら、公民館事業とあわせた組織づくりに取り組んでいただいているということで、まずもって3地区の皆様にご感謝を申し上げたいというふうに思います。

私どものほうでは、午前中もお話しさせていただきましたけれども、地区公民館の運営に関して、指定管理ということで、各地区公民館からご提出いただいたさまざまな事業計画であったり、あるいは活動の実績報告やら運営のためのさまざまな、どのぐらいの経費がかかるのか、そういったことについては私どもいただいております。

りますので、それに基づいて、さまざまな事業成果とか報告等を我々も承知しているところですが、やはり実際に公民館の現場で仕事として働いたことがないので、そういった意味ではどの担当課も経験ない事業でございますので、やっぱり金子議員やら実際現場の主事、館長の皆様からいただく声というのは非常にありがたいものだと思います。

担当課である地域づくり推進課では、公民館との連絡や相談はもちろんでございますが、地域づくり協議会の役員会や委員会、全体会へ参加させていただいて、コミュニティセンターの役割と地域づくり計画の実践、運営する組織づくりなどをお話しさせていただきながら、地区ごとの理解を深めてきたところです。

また、毎月開催されます地区公民館の館長会議の場には、地区間の情報交換の場でもあることから、コミセン組織化への共通した取り組み、取り決めの相談、地区の協議会等への出席の調整、進捗に合わせた協議を行うよい機会ということで、担当課のほうでは毎回出席して意見交換をさせていただいたところがございます。

ただ、市民全体へのお知らせは、私自身も現場に出向いておりませんし、ちょっとこれは反省しなきゃいけないのだというふうに思っておりますが、あやめレポで、まず特集を組もうということで計画しておりまして、当初は夏ごろを予定しておったんですが、やはりもう少し進んでからのほうがいだろうということで、さまざまな調整などを行いまして、来年の2月に、あやめレポで今回のコミセン化について、できるだけ市民目線でのそういったお知らせをして理解を深めていきたいというふうに思っているところがございます。

今、少しずつ各地区からの座談会等々のご案内をいただいております、この間いただいたところの中で、こういうことがありました。やっぱりコミセン化に対する非常に不安といいますか、

それは議会の皆様の市民との意見交換の中でもたくさん出されたということでございますが、これは当然あるべきことだと思っております。

ただ、不安が出てくるというのは、それだけその不安を申された方が地区公民館事業にかかわっていらっしゃるから不安というものがあるんですね。一般の市民は残念ながらかかわっていないと。ただ行事に参加する人は大勢いらっしゃるんですけども。ですから、これからいろいろ実際にコミセン化を進めたところと、地区公民館のままのところとありますので、いろんな意見が出てくるんだろうと思って、来年はそういったところを一生懸命説明して回らなきゃいけないと考えておまして、来年の4月から7月まで、大体40カ所から50カ所ぐらい、私と、担当課じゃないんですけども、出向いて、コミセン化に対することとか、あとは公共施設整備に関することとか、そういったことなどを意見交換する場を設けていきたいというふうに思っております。今後ともいろんな周知に取り組みたいというふうに思いますので、よろしくご理解賜りたいと思います。

2点目でございますが、議員のほうからは、地域には、コミセン化の目的や地域づくり計画の取り組みを理解していただいている方々もいらっしゃる。公民館職員も含めて、わかる方々と連携して対象者に合った説明をしてほしいとすべきではないかということでございます。これは、議員のほうからご提言いただきましたように、地域の方々と一緒に住民への説明機会をつくることは、大変よいことございまして、まさに地域づくりの手法であるというふうに思っています。五十川の分館連で出された、あの5点というのは、もうすごいなど。本当にわかっていただいているなというふうに思っておりますが、これは一般の市民の方には、そう簡単にはなかなか理解できない部分もあるなと思っております。ですから、その人その人に合った説明をす

るっていうことを心がけていくと同時に、ある程度時間をかけて、まず、原点、なぜコミセン化を進めなければいけないかっていう原点などを、そして、我々の考えてる目的、これは、我々っていうのは、我々行政じゃなくて、地域のリーダーとして動いていただいている方々の目的なんかも詳しくお話をしながら、ぜひ理解を進める努力をしていきたいと思っています。

なお、各地区では、公民館報などに地域づくり計画やその進捗状況、そして、コミセンへの移行についての取り組み状況などを掲載していただいております。これも大変ありがたく思っているところでございます。今後とも、地域との連絡を密にして、決してスムーズにはいかないんでしょうけども、まず、一步ずつでも前進しながら、できればこれから5年ぐらいで、それぞれ地域に合ったコミュニティセンターというものを形づくっていければなというふうに考えております。

ちょっと蛇足で恐縮ですが、この間、ある地区で、これからの人口減少について数字を上げてお話ししたんですけども、その際、長井市だけでなく、置賜3市5町をぐっと上げたんですね。そうすると、ある方から質問があつて、この数字を見ると、米沢市と高畠町と南陽市は人口減らないじゃないかと。我々のところは減ってるけど、あっち何で減らないか、これわかるよねって言われたです。うん、わかりますと。それは、交通の立地のいいところに人は移動すると。やっぱり交通の便のいいところも人口は減ってるんだけども、我々、西置賜みたいな減りぐあいではないと。ですから、そのハンデをどういうふうにして我々背負ってプラスに変えていくかということのいろんな方策があるわけですね。先ほど、きょういろいろ議論いただいた、教育とか子育ての充実とか、特に私ども弱い、雇用とか、あるいは都市機能、商業機能、こういったことも重要なんですが、やっぱり一

つは、どこに住んでも、あるいは、どこから移住定住していただいても、長井だったら、よそ者にも、あるいはずっと前から住んでる人も一緒になって自分たちの地域をよくしていこうと、共助、支え合う、そういったまちというものを見せていくことが、本当の意味での幸せじゃないかと。そういった、形だけじゃなくて、目に見えるところだけじゃなくて、本来の我々暮らしていく中で一番原点の部分、時間はかかるかもしれないけど、つくっていくことが重要だと思ふという話をさせていただいたところで、これは、金子議員が常々おっしゃっていることに私は通ずるといふふうに思っています。

最後、3点目でございますが、現在、コミュニティセンター化の準備を進めている3地区では、組織づくりを行ってようだが、市から、案として2パターンの組織図が配布されてると。3地区には、これまで築き上げてきた地域づくりの特徴があると感じている方々も多くいます。まずは、地域の特徴を生かしながら、組織の基礎づくりを大切に、自分たちで無理なくできることから取り組んでいくということが第一歩だということで、また、女性への参画というところが、ちょっとそのほうが弱いんじゃないかというようなご視点でございます。

これはごもっともでございますが、そういったことも含めて、まず、組織づくりのあり方については、午前中の五十嵐議員のご質問でもちょっと考え方を述べさせていただきましたけれども、まず、コミセン化になると、館長初め、主事の皆さんの業務がもうかなりふえるということが想定されますんで、それをどういうふうにしてちゃんとやっていける体制を築き上げるかというところが、私ども行政の役割だと思っておりますので、そこは再任用職員とか、それなりの経験のある職員を、例えば直接派遣する、あるいは併任の辞令を出して、本人は大変かもしれませんが、職場としてそれを容認して、

まず、必要なときに駆けつけられる、事務をこなす、あるいは応援するという体制をとっていくように、まず、これからすぐ検討したいと思います。

あと、運営組織については、各地区の事情に任せてるもんですから、まちまちなんですね。やっぱりこの間も西根の女性の皆さんとの意見交換会の中でも出たんですが、自分は厚生部門で、いろんな部門設けてるんですが、厚生部門でいろいろ提案出してんだけど、実際運営の、まず根幹の部分の運営員に女性が誰もいないじゃないかと。充て職みたいなものばかりで、これでは本当に我々頑張ったところがきちんと進んでいくのか不安だという声がありました。そこについては、やっぱり地域の事情があるんで、我々のほうから、こうしなさい、ああしなさいっていうことは、すぐには言えないんですが、やっぱり話し合いを進めながら、最終的には最低でもNPO法人にしてもらおう。そして、責任ある、そして、継続ある運営を行う体制をつくっていくと。これは、地域によって当然差があるというふうに思ってますが、そんなことを考えてます。

あと、全体的なことで申し上げますと、やはり午前中申し上げたんですが、私ども地方創生の推進交付金は、ぜひ活用したいと。小さな拠点というのは、地区の皆さんの地域づくり計画に基づいて、いろんな事業をする際に、その事業を3年ないし5年間ぐらい継続して支援できるような、そんな事業を皆さんと話ししながら、各地区の考え方、地域づくり計画に合わせた対象事業にやってくということと、ソフトだけじゃなくて、ハードもある程度きちっと論理が立てば応援してもらえると。こういったところで、多分、今後施設をこういうふうに直してほしい、いろいろあると思います。そういったところなども、やっぱり来年から、コミセン化したところから計画を上げてもらって、我々と話しして、

どこからやっていくかということなどを進めていかなきゃいけないと思ってます。

例えば、致芳地区でしたら、ほかのところと違うところは、致芳児童センターと一体なわけですよ。この辺のところをどういうふうに改善していくかとかいろいろあると思います。あと、古い建物になってしまいましたんで、そういったことなども踏まえながら、ちょっと長くなりましたけど、お話を答えていきたいと思えます。

地域づくり計画は、地域の皆さん、長井市でいうと、6地区の皆さんが、みずからの考えで計画して、地区に住んでる皆さんが、将来にわたり生きがいを持って、幸せに、また、支え合って暮らしていくために、地区としてどのようなことに取り組んでいくかという計画になります。そして、その実践ということでございます。市からたたき台として組織の事例ということで配布させていただきました組織図は、基本的には、地域全体の組織化という形で示させていただいたものでございます。その運営方法については、2つ想定しておりまして、1つが、地区全体で動かしていくパターンのもので、2つ目には、計画は地区全体で行い、運営はこれまでの公民館運営協議会と同じような役目を果たす組織を置くものとしてパターン分けした事例をお示したところでございます。各地区のこれまでの経過もございまして、その地区に合った形で運営体制をつくっていただきたいと考えております。

ご提案いただいておりますとおり、地域の特色を生かしながら、土台となる組織をしっかりとつくっていただきたいと思えます。

先般の答弁でも申し上げましたけれども、コミセンで行うことができる事業、または、地域の課題はさまざまございまして、それらの事業を行うには、コミセンの運営組織だけでなく、その事業を地域として実施する受け皿が必要で

す。これは金子議員からもございましたように、やっぱり何かモデル的なものをまずつくっていかなくちゃいけないと。それでそれぞれの地域に合った形でやってくと、手っ取り早く、まずは冬の対策とか、あとは、自主防災組織などもあるんですけども、あとは、健康づくり、生きがいづくりとか、そういった地区公民館でやってきたことのさらに広げた形のものとか、あとは、先ほどございましたように、スポーツ、地域型のスポーツクラブみたいな、これは健康と通ずるものがあるわけですけども、あと、青少年育成、子育てとか、そういったところを具体的に、我々も恐れずに、例えばこういうのがあるんじゃないかと、事例などを示しながら、あとは、ぜひ新たな公民館の中核を担う市民の皆様、あと、地区コミセンの役員とか、主事の皆さんに先進地をやっぱり学んでいただいて、そこから自分たちに合ったようなものをつくっていただくとか、そういったことなど、できるところから取り組めるような、そんなことでお願いしたいと思います。余り暗く考えずに明るくやっていきたいというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○**渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** 私のほうには、地区公民館のコミセン化に伴いまして、長井市教育振興計画、これを見直す必要があるのかどうかといったご質問と、それから、コミセン化について、教育委員会、それから、社会教育委員会の中でどんな意見が出されたのかという2つのご質問をいただきました。

まず、長井市教育振興計画の見直しにつきましてお答え申し上げたいというふうに思います。

まず、議員ご承知のとおり、長井市教育振興計画につきましては、「いのちを育み『長井の心』を未来につなぐまち」、これを全体の目標としまして、それから、生涯学習の施策の目標としまして、生涯学習を通して人も地域も元気

なまちという目標で実施しているところでございます。この計画は、平成26年度から10年間の中で、特に前期5年間、平成30年度、来年度までの重点的に取り組むべき施策を示しているものでございます。議員からご質問がありました公民館活動の充実という部分でございますけれども、生涯学習推進のための施策の一つとして位置づけをしております、それぞれの地域の特性を生かしながら、さまざまな事業を展開していただいております。未来につなぐまちづくりにとりまして、大変重要な事業であるというふうに認識しているところでございます。コミュニティセンター化への移行に伴いまして、再来年度に向けて、計画の内容及び記述等につきまして、当然これは見直しを図っていかねばならないものというふうに認識をしております。

次に、教育委員会や社会教育委員会の中でどのような意見が交わされたのかということのご質問にお答えを申し上げたいというふうに思います。

まず、コミュニティセンター化につきまして、7月に開催いたしました総合教育会議の場におきまして、教育委員の方々からご意見を頂戴したところですが、委員の方々のご意見といたしましては、例を挙げますと、学校を卒業した子供たち同士が地域とかかわりが持てるような、そんな取り組みをしていただきたいというご意見。それから、コミセン化に向けて、多くの人がかかわりを持つような下地づくりが大切ではないかというご意見。それから、元気なお年寄りにいかに地域づくりに参加してもらうことが大事であり、高齢者の方々の活躍がキーポイントではないかといったご意見。そして、総合戦略にある若い世代の結婚、そして出産にも取り組んでいただきたいといったご意見が出されたところでございます。

また、同じく7月に開催いたしました第1回

の社会教育委員会議におきましても、コミセン化について、委員の方々からご意見を頂戴しているところでございます。こちらもご意見の一部を紹介させていただきますけれども、今まで培ってきた公民館活動という財産、地域の方々のつながりや連帯感、それから事業を進めるパワー、これがうまく引き継がれ、一層発展、充実していくことを願っているといったご意見。また、地元の人たちの地域を愛する気持ちを中心とした話し合いの場が大切だというご意見などをいただいているところでございます。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 小関浩幸地域づくり推進課長。

○**小関浩幸地域づくり推進課長** 私には、職員が各地区を回ってみて現在の課題をどのように捉えたのか、今後の対応はというご質問でございます。

私も11月の下旬、3館ほど訪問させていただきました。そこで公民館職員の方のご意見などをお聞きしまして、改めてその館の事業の内容や運営組織は、地区によってそれぞれ特色があるな、いずれの公民館も地区活動の最先端でその役割を一生懸命果たしておられるのだなと感じたところがございます。

コミセン化につきましてのご意見につきましては、職員の方々には、やはり公民館がコミセン化になる、これから地域づくり計画を実践していくことになるということに、やはりさらに大変になっていくのかなというような不安、あと、運営組織が変わるわけです、市長からありましたように。それで、これまで同様、うまく事業を実施していくことができるのかなといったような不安もお聞きしましたが、金子議員から例に挙げていただいたように、本当に公民館では前向きに捉えていただきまして、この4月のコミセン化に向けて一生懸命でございます。ということで、確かに名称や組織が変わることについては、不安はあるわけですし、地域づくり計

画、各地区一生懸命つくっていただいたのを見せていただきますと、広範囲に地域の課題を拾い上げておられて、理想的な将来像を描いておられます。それをまず全て、すぐにでも実行に移すということは、これは大変なことで、とても無理だと、無理だと言っては失礼ですね、困難なことだと思います。

でも、公民館というのは、これまでも十分に地域づくりにかかわっていただけてきておりますし、まずは、地区の人々がさらに使いやすい施設になること、あと、地域づくりに役立つ事業を行うことができる施設になることがこのたびの条例改正でもありますので、やれるところ、できるところからしていきましようというようなお話を交わさせていただいたと感じております。

今後の対応でございますが、まずは、コミセンとしての活動を実感するには、やはり事業の成功例をつくる必要があると感じました。そのためには、やはりそれぞれの地区の事情に合ったしっかりした組織づくりがまず最初に大切だ。そして、先ほど来ありますように、負担ばかりふえてはだめなので、事業の整理というのも必要か。そして、その整理した事業を実現するための手法づくりというのがまた必要になると考えますので、地区の方々、職員の不安が解消できるよう、今後も引き続き、明るく元気な地域をつくるために地域に入りながら一緒に進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○**渋谷佐輔議長** 金子豊美議員。

○**3番 金子豊美議員** 答弁どうもありがとうございました。

二、三再質問をさせていただきたいと思いません。

まず、地域づくり推進課長にお伺いしたいんですが、先ほど、市長の答弁にありましたように、組織づくりの中で、現在、各地区の公民館

の運営協議会の中ですが、そういった中にも女性が3名ほどぐらいずつ入ってると思うんです、各地区。そういったことも考えまして、これから組織が大きくなったときに、やっぱり女性のそういった立場を活用する、そういうふうなことで、各地区のほうに出向いていったときに、直接そういった話もこれからどんどん進めるべきでないかなと、女性の活用について。支援というか、相談に乗りながら進める、今がそのチャンスだと思うんですが、その辺について、課長はこの後どのようにしたいというか、そんなことをお聞きしたい、課長に。

○**渋谷佐輔議長** 小関浩幸地域づくり推進課長。

○**小関浩幸地域づくり推進課長** 金子議員がおっしゃるとおりで、男女共同参画も私の課、地域づくり推進課が担当しております、まさに、この前、男女共同参画審議会の委員長をお願いしたいと考えてる前山大の教授の井上先生のほうとお話ししたら、やはりこういう組織だけの女性の役職比率だけでなく、地区活動においての女性の比率も大切じゃないかなどというアドバイスもいただきました。それがすぐにも長井市に可能かというのはわからないんですけども、本当に活躍なさってる女性の方は多くいらっしゃるし、組織もございますので、その辺、私どもも働きかけをしながら、地域づくり活動にかかわっていただければと考えております。

○**渋谷佐輔議長** 金子豊美議員。

○**3番 金子豊美議員** 次に、教育長にお伺いします。

この間、五十川の自公連の研修会に参加したときに、こういった表をいただいたんです。今までの公民館とコミセン化と変わる部分をまとめた表なんです、この中にほとんど教育委員会という名前が載ってるんです。教育委員会の事業等について、プラス地域づくり関係の事業というふうな理解をしてる方が多くいやるとい

うふうな中で、やはりコミセン化になって地域づくり推進課のほうで主的にはなるんですけども、その中でやっぱり社会教育の部分というのは、すごく大事なというふうに改めて私、思ったんですが、そういった中で、今までもかかわってきた事業があるわけですけども、それは当然継続することも大事だと思うんですが、今まで以上に、やはりその地区に教育委員会が出向いて行って、いろいろ職員と話しながら、コミセンと一緒にできるような事業についても、今まで以上に話し、足を運んでいただいて、そういう交流というかな、連携をしていただきたいというふうに私は思ってるんですが、その辺どのようにお考えですか。

○**渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** 地区公民館がコミセンに変わることによって、これまで取り組んできたことが後退するようなことがあってはいけないというふうに基本的に思います。教育委員会としても、当然、社会教育、あるいは生涯学習の中にかかわっていくことは、これまでどおり、あるいはこれまで以上に頑張っていかなければならないというふうに思います。

前回は金子議員からご提言いただいたんですが、もっともっと現場に足を運んで、コミュニケーションをとりながら、さまざまな政策の立案なり、それから、もうちょっとブラッシュアップすることについて、意見交換したほうがいいんじゃないですかというご提言、この前もいただいたわけでございますけど、まさにそのとおりで、コミセン化になりましても、教育委員会としてのその社会教育、あるいは生涯学習にかかわる部分につきまして、緊密に連絡をとり合っていきたいというふうに考えております。

○**渋谷佐輔議長** 金子豊美議員。

○**3番 金子豊美議員** ぜひそのようにしていただきたいと思います。やはり地域づくり推進課もなんですが、現場の職員というのは、その担

当の方々と話しすることによって、よっぽど気持ちに余裕出てくると思うんです。ですから、きょうは朝から何となく議会の中が暗い暗いという言葉が飛び交うようでありますけども、そういうふうな暗さを省くためにも、ぜひ各地区のほうに職員の方に運んでいただいて、メールでやりとりするのも結構なんですけど、ぜひいろんなご意見を話し合いをしていただきたいという要望です。よろしくお願ひしたいと思います。

次に、市長にお伺ひしたいと思います。

先ほど、午前中ですか、五十嵐議員の質問の中で再任用の職員の配置とか、それから、市長のほうからは、若い職員でも併任で地域さ行かれるような方法とか、そういった支援方法もあるというふうなお話があったわけですが、まずは、主事1名増員したわけですね。地域づくり計画、現在つくってるところに、もうできたところにあるわけで、その1名ふえた分でどれぐらいの仕事をまずできるかという部分もあるかと思うんです。それがまだ先、見えないうちに職員来んなだぞという、そういう話、先々のことを考えていただくのも結構なんですけど、やはり、現在の職員にまず期待していただくことが1点。あと、職員ふやしていただくのはいいんですが、その職員をサポートする地域の中の人材というか、それが一番大事だなというふうに思うんです。ですから、その辺のことは、状況を見ながら、慎重に進めていただきたいなと私、思ってますので、それ1点お聞きしたい。

それから、予算の関係で、今、交付金、30万円プラスアルファとかいろんな話あるわけですけども、まずは6地区、ここ一、二年で体制が整って全部コミセンになることを期待しているわけですが、そういった時点で大規模な、あくまでも大規模な予算については、話を共通に進めたほうがいいんでないかなというふうな私、思うんです。現在、地域づくり計画の中でも、今のままで公民館でやってきた事業もあります

し、これからやりやすい事業も中にあるかと思ひますので、そういった面も含めて、コミセンになったから、ほんじゃあ、すぐぽんと100万円も200万円ももらって事業すっかっていうのでなくて、あくまでも、地域でこういうふうな事業でこういうふうにしたいから、これぐらいの予算が必要なんですよというふうなのに基づいて、市で組織するという調整会議ですかね、地域づくり推進課が音頭とって各課の方々も交えて、やっぱりそういうところで検討していただいて、そして、予算については有効に使っていただきたい。これから公共施設とかいろんなものでお金もかかるわけですし、昔みたいに5%減10%減、そうやって公民館でもこういう紙、裏表使ってきたと、そういう時代には戻りたくありませんっていうふうに多分思ってるのは私だけでないと思ひますんで、その辺の予算配分についても慎重にさせていただきたい、この2点についてお伺ひします。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 金子議員から、まずは、主事が1人ふえたということと、来年度からコミセン化になった場合に、やはり、重要なのは、主事の皆さんの能力を十分に発揮できるようなサポート体制ということだというふうに思ひまして、それはおっしゃるとおり、先ほど、五十川の資料も見せていただきましたけども、びっくりしました。これぐらいの資料を、我々市の職員でもこんなにわかりやすくつくれる職員って限られてると思うんですね。そういった、地域にいらっしゃるんですよね。いろんな民間であれ、公共であれ、いろんな仕事を経験されたり、あるいは公民館の主事とか経験されたりということで、本当に先を見て考えておられる方がいらっしゃいますんで、そういった人たちにやっぱり協力いただく、そのような体制をいかにとつていくかということも重要だと改めて思ひましたところなんです。

これから、市のほうのかかわりについては、人的な部分で検討してまいります。多分、市の職員、現職の職員、これは再任用であろうと、やってもそこにずっといても、あんまりプラスになんないなって、実は前々から思ってたんですね。どうしても我々の行政の職員が行きますと頼るわけですよ。ですから、そうすると、館長さんとか主事さん、それぞれ人によっていろいろ違うわけですが、どうしても市から来た職員に頼ってしまうと、なかなか人材がそこでうまく育たない場合もあると。ただ、市から来た職員がいろいろサポートして、そういう職員を育てるんだということでの進め方もあるんです。ですから、どういう人材が本当にそこでいいのかっていうのは、やっぱり人も見るべきだと思ってるんですね。市の職員、優秀な職員もたくさんいるんですが、やっぱりそれぞれなんですよ。ですから、そこを見きわめて考えたいと。その地域の人材をいかにご協力いただくかということも含めて、ちょっと検討してまいりたいと思います。

あと、2点目の件でございますけれども、大変ありがたいことを言っていたなと思っております。例えば、当初予算では、新年度になってから具体的にコミセンが始まって、じゃあ、今後どんな事業をしていくかと、いわゆるコミュニティビジネスみたいなものはたくさんあるんで、それをせっかく指定管理で新たなコミセン化するわけですから、収益事業ではないですけども、ある程度、参加費用とか負担も一部あって、それである程度事業として成り立っていると。私どもとしては、これは有償ボランティアですから、ボランティアでは続かないので、それなりにきちっと委託料みたいな格好で続けられる事業、その組織をやっぴりつくっていく、そういったことを最初からスタート時から検討していきたいと。

したがって、補正等々で、ある程度まと

まった時点で要求いただきたい。当初予算の部分は、各事業、こういった事業をやりたいっていうことについては、ちゃんと予算化されてるはずなんですね。それ以外の何でも使えるというものの部分が30万円が基礎としたんですが、ただ、先ほど言いました、人材の部分であったり、あとは、研修ですね。今もいろんなところの先進地の研修は進めてると思うんですが、研修はちょっと時間とるの大変ですけども、あ、ちょっと長く話しすぎました。幾らあっても足りるということはないと思いますんで、その辺のところは、もう少し地元と話して、各地区公民館と話して検討してまいりたいと思います。

ただ、財政的には、十分我々も公共施設整備も、あと、こういったところも、苦勞はしますけども、対応できるというふうに考えてますんで、そこは心配いただかなくても大丈夫というふうに断言いたします。

○**渋谷佐輔議長** 金子豊美議員。

○**3番 金子豊美議員** どうもありがとうございました。

こういう話をすると時間がたつのが早いもので、大分、あと1分ちょっとしかなくなったわけですが、最後になりますけども、やっぱり公民館職員、市の職員、市長も当然含めてでありますけども、人材の育成が大切でないかなと。それから、社会教育の充実が必要でないかなと。それから、教育委員会の役割がますます大切でないかなと。それから、地域づくり推進課が中心になり、各課の連携をとりながら実施していく。コミュニティセンターが小さな拠点として成功するか、組織づくりがうまくいくかいかは、こういったそれぞれの立場の人が協力し合って進めることが鍵ではないかなというふうに思ってますので、今後とも議論を交わしながら、よい方向に向くように、私も頑張りますけども、協力してお互いに努力しながらやっていければというふうに思ったところでした。こ

れで私の一般質問を終わりたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

散 会

○渋谷佐輔議長 本日は、これをもって散会いたします。

再開は明日午前10時といたします。ご協力ありがとうございました。

午後 4時20分 散会